

北九州モデル導入の**実際**を聞きました

先人たちの声

社会福祉法人松寿会 特別養護老人ホーム

こくらの郷

入所70名/短期入所10名
北九州市小倉南区高野4-12-11

平成19年6月に開設、施設全体が豊かな緑に囲まれた環境にあり、利用者の願いに寄り添い、一人ひとりが望むケアの提供に努めている。



施設長
宮脇さん



北九州モデル導入の主な取組内容

項目	巡回	コール対応	準備・片付け(胃ろう)
問題・課題	夜間訪室の回数が多い (一律2時間毎の体位変換)	同時にコールが鳴った際の判断に悩み、戸惑うことがある	胃ろう処置の準備や片付け時の動線にムダがあり、移動に時間を要している
取組	利用者の状況を再評価し、数名の利用者について体位変換のタイミングを見直した	見守り支援機器の選定と導入に向け、機器のデモを実施(2社)し、今後の方向性を定めた。	胃ろうの種類を見直し、業務手順を変更 使用物品の保管場所を一か所にまとめて整理
効果	利用者の睡眠の質確保と職員の負担が軽減した(体位変換が4時間毎へ)	—	物品の準備や片付けでの往復がなくなり、 移動時間が3割減少した

1 北九州モデルに取り組もうと思ったきっかけは？

新型コロナウイルス感染症の影響で、職員の疲弊が続き、気持ちがふさぎ込む様子が見られました。このままではケアの質が低下してしまうのではと思い、負担を軽減し、士気を高めるべく、業務改善に取り組もうと考えていました。しかし、自分たちだけでは具体的にどのように進めていけば良いか悩んでいたところ、北九州モデルの話があり、参加することにしました。

2 職員との合意形成はどのように行いましたか？

まずは早い段階からリーダー会議とサブリーダー向け勉強会の場で、北九州モデル導入を予定していることを伝え、その目的と内容について説明をしていきました。その後、リーダーとサブリーダーから現場の職員へと伝えていったことで、大きな不平不満が生じることはなく取組を進めていくことができました。

3 取組にあたり壁になったことは？

取組開始当初は、職員が自ら考え、積極的に意見を述べ行動に移し出すまでに時間がかかりました。そこで、地道に意見を求めつつ、実行力のあるメンバーを中心に取組を進めていったところ、徐々に意見が出るようになり、改善していきました。

4 今回の取組で役に立ったことは？

第三者の客観的な意見を通じて、我々も自施設を客観的に捉えるようになり、視野が広がりました。また、たくさんの介護テクノロジーについて情報を得たことで、自分たちの施設に何が必要なのかを整理することができました。そして、実際に体験したり、メーカーと交渉することで、外部との新たなつながりを構築することができました。

5 新たな取組など、今後の方針は？

特殊浴槽を追加し、それに伴う業務手順や動線を見直すことで、入浴介助の負担軽減とケアの質向上を図っていきます。さらに、将来的には見守り支援機器を導入し、見守り体制の強化にも取り組む予定です。また、現在は紙媒体が多く残っているため、記録のデジタル化と効率化を進め、生まれたゆとりを活かしてケアの質向上を目指しています。

6 これから取り組む施設へのアドバイスを！

何もしなければ、当然何も変わりません。行動を起こすことで、必ず変化が生まれます。目に見える効果は、はじめは出にくいかもしれませんが、職員の意識が変わったり、視野や人脈が広がったりといった長期的な施設の財産や糧につながる結果を得ることができます。ちょっとしたことからでも取り組む意義がありますので、是非チャレンジしてみてください。